

【目的】

○奈良県の高齢者の生活の現状に即し、高齢者が安心して日常生活をおくることができる暮らしやすいまちづくりを目指すため、現役世代や家族も対象とした総合的な対策を示す。

【特徴】

- 高齢者の生活・介護等に関する実態調査により、奈良県の**高齢者の現状、ニーズを把握**し、課題解決に向けた具体的な対策を整理
- 高齢者を支える家族や、高齢者だけでなく65歳以前の中高年期も視野に入れた**総合的な対策・施策**を戦略的に展開
- 世代(昭和ひとけた、団塊の世代等)や状態(元気高齢者、要介護高齢者等)、都市部と山間部など、**それぞれの実情・課題**に対応
- 高齢者を地域で支え合う奈良県の実現に向け、それぞれの責任を意識するため、県・市町村・県民の**役割を明確化**

高齢者の生活・介護等に関する実態調査

- [実施期間] 平成21年8月～12月
- [調査対象] 40歳以上の元気な県民、介護を要する人と家族、介護サービス事業者とその従事者等、約2万
- [調査方法] アンケート調査と対面調査

《結果のポイント》

- ・高齢者は、日常の家事、特に**食事の準備や買い物に不安**を感じている。
(食事の準備55.4%、買い物54.0%)
- ・要介護高齢者の39.6%が**単身または夫婦のみの二人暮らし**である。
- ・若年者、高齢者ともに半数以上が**最後を迎えたい場所として住み慣れた自宅**を挙げている。
(若年者51.4%、一般高齢者56.2%、要介護高齢者55.7%)
- ・持ち家率が高いが、自宅の**維持管理、バリアフリー化に不安**を感じている。
(維持管理が大変32.7%、バリアフリーになっていない32.6%)
- ・介護をする家族に**身体的、精神的に負担を重く**感じている。(高齢で介護が困難22.3%、精神的・体力的負担が大きい13.9%、気持ちや身体を休める機会がない18.2%)

【基本理念】

- 健やかで、実り豊かな人生を送ることができる健康長寿の実現を目指す
- 高齢者自身が主体的に関わる社会システムへの転換を図る
- 地域みんなで支え合う社会づくりを推進する
- 県が、市町村や県民と連携して課題解決に取り組み、高齢者が暮らしやすい「奈良県モデル」を構築する

【施策体系】

(主な施策)

- 1 健やかな老い ⇒ かかりつけ医による地域医療システムの構築の推進
- 2 社会参加の促進 ⇒ 高齢者の居場所づくり(地域の縁側)
- 3 暮らしのサポート ⇒ 民間事業者等との連携による新サービスの開発
- 4 住まい・まちづくり ⇒ 歩いて楽しく買い物ができるまちづくり
- 5 相談・支援体制の充実 ⇒ 地域包括支援センターの機能強化への支援
- 6 認知症高齢者への対応 ⇒ 早期発見システムの確立、認知症の知識の普及・教育
- 7 在宅での看取りを支えるシステムづくり ⇒ 医療・福祉連携のケアシステムの全県的展開
- 8 介護を支える家族への支援 ⇒ 介護が困難な高齢者や家族への集中支援システムの確立
- 9 介護保険制度における介護サービス ⇒ 介護サービスの質の向上のサポート
- 10 魅力ある介護職場、介護人材の確保 ⇒ 介護サービスの基盤を支える人材の育成
- 11 県民への啓発 ⇒ 老いとその備えの教育・普及啓発